



# 第2回 ホームホスピス実践者育成塾

一般社団法人 全国ホームホスピス協会

ホームホスピスは単に「住まい」というかたちにとどまらず、地域全体に働きかけるホスピスムーブメントの拠点です。今、その理念、目的、かたちに共感した人たちによって、全国各地に開設され、ムーブメントの輪がさらに広がろうとしています。

ホームホスピスは「生えてきた」と表現されるように、開設された地域の風土、土壌にかなう「住まい」でなければ健やかに育っていきません。一方で、制度の枠にとらわれないという性格上、開設された地域の条件や開設する人たちの思いによっても、そのかたちやケアの内容に幅と濃淡が出てきます。私たちは、均一化は求めず、それぞれの個性を大切にしたいと思っています。しかし、だからこそホームホスピスの質の担保が重要と考え、協会では、2015年に「ホームホスピスの基準」をつくりました。また、その評価のためのレビューを導入して、認定ホームホスピスという制度を設けました。それがより具体的に相談を受けたり、助言したりする機会となっています。さらに、昨年は少人数の合宿形式で実践者育成塾を開講し、今年第2回目になります。今回の総論の特徴的なテーマは「環境・空間」です。「住まい」としてのホームホスピスについて改めて考えます。

育成塾の対象は、日本財団のリーダー研修受講生、ホームホスピスの運営・管理者とスタッフ、また、ホームホスピスに関心があり、ゆくゆくは開設したいと考えている方です。また、既存のホームホスピスにとっては、フォローアップ研修の場でもあります。講師陣には、ホームホスピスの理解者であり、各専門分野での業績が高く評価されている方々を迎え、ホームホスピスへの考えを深め、自身の活動を振り返る機会にしたいと思ひます。

裏面のプログラムのとおり「総論」と「各論」の2回に分けて実施します。皆様のご参加をお待ちいたします。

□対象受講者：在宅ホスピスリーダー研修生／正・準会員／賛助会員／ ホームホスピスに関心があり、開設したいと考えている方

## 総論〈2018年5月9日～10日〉

日  
時  
場

- 2018年5月9日(水) 10:30～17:00 ホームホスピスの理念・環境
- 5月10日(木) 9:00～16:00 ホームホスピスの組織づくり・運営
- 開催地：日本財団ビル2F〈東京都港区赤坂1丁目2-2〉
- 受講料：研修費 会員 12,000円 非会員 17,000円 (研修費にはお弁当代を含みます)
- 定員：200名
- \*「総論」は、各人で宿泊の手配をお願いします。

## 各論〈2018年6月10日～12日〉

所  
受  
講  
料  
な  
ど

- 2018年6月10日(日) 13:30～18:00 ホームホスピスのチームケア
- 6月11日(月) 9:00～16:30 日々の生活支援ケア
- 6月12日(火) 9:00～16:00 ワークショップ
- 開催地：志賀島休暇村〈福岡市東区勝馬1803-1 電話：092-603-6631〉
- 受講料：研修費 18,000円 非会員 23,000円
- 宿泊費：22,000円〈2泊3日6食〉
- 定員：100名

\*なお、勝手ながら各会場の都合で、定員を超えた場合お断りすることがあります。

【お問合せ先】

〈なお、お申込みは、別紙申込書にてお願いします〉

一般社団法人 全国ホームホスピス協会事務局 〈月～金 10:00～17:00〉

〒880-0913 宮崎市恒久2-19-6 TEL 0985-65-8087 FAX 0985-53-6054 email info@homehospice-jp.org

【目 的】

1. ホームホスピスを開設したいと考えている人だけでなく、在宅ホスピスリーダー研修を受けていないホームホスピスの運営者・スタッフのフォローアップ研修とし、ホームホスピスの理念と運営、ケアの実際について学び、広い視野をもって活動できる能力を養う。
2. ホームホスピスに関する多方面からの講義を聴き、自分の考えを深める機会とする。
3. ホームホスピスの運営には、利用者の確保、地域とのつながり、自治体との関係づくり、消防法や建築基準法などへの配慮と対処、経済的負担など多くの課題がある。今から開設する人は、運営者としてその課題に取り組むための姿勢を学び、すでに開設している人は、これまでを振り返り、現状を認識し、今後のよりよい運営につなぐ機会とする。

「総 論」 2018年5月9日（水）～5月10日（木）

東京会場（日本財団ビル）

□ 2018年5月9日（水） ホームホスピスの理念、ホームホスピスの環境

時 間	テーマ	内 容	講 師
10:30-11:30	ホームホスピスとは何か	ホームホスピスの広がりや現在。理念を具現化していくための取り組みや看取りの文化の復活など、市民活動としてのあり方を考える。	市原 美穂 (全国ホームホスピス協会理事)
11:30-13:00	ホスピスの誕生と発展	ホスピスの本来の意味と役割、市民運動としてのホスピスについて。また、医療とホスピスの関わりについて学ぶ。	内藤 いづみ (ふじ内科クリニック院長)
14:00-15:30	ホームホスピスの環境 「住まい」という環境	誕生、病、死など機能分化によりできた施設に対し、包括的な「家」＝ホームホスピスのあり方や、制度に載らないかたちとその意味、展望を探る。	山口健太郎 (近畿大学建築学部教授)
15:40-17:10	ホームホスピスの空間 がもつ課題	法制度の中であって、ホームホスピスがそれをどう活用していけばいいのか。なぜ「民家」であることを選択するのかなど、課題を明らかにし学ぶ。	園田真理子 (明治大学理工学部建築学科教授)

□ 2018年5月10日（木） ホームホスピスの組織づくり・運営

9:00-10:30	地域共生社会の創造	ホームホスピスを取りまく社会環境を知り、地域とともに生きるホームホスピスの役割を考える。	高橋 紘士 (高齢者住宅財団特別顧問)
10:40-12:10	どうやって人を育てていくか リーダーシップ論	介護の現場で、自立した考えをもって行動できるスタッフを育てるためには何が必要かなど、ホームホスピスに共通する課題にヒントを与える。	竹熊 カツマタ 麻子 (筑波大学医学医療系国際看護学科教授)
13:10-14:00	ホームホスピスの組織 づくり	単独運営や収益に結びつく事業と組み合わせた多角運営などホームホスピスのかたちを紹介し、地域と条件にあった組織づくりを考える。	黒岩 雄二 (全国ホームホスピス協会事務局長)
14:10-16:00	組織と運営の実際	上の「ホームホスピスの組織のつくり方」を受けて、それぞれ運営のかたちが異なる3事例を紹介する。	竹熊 千晶 樋口 千恵子 松本 京子

「各 論」 2018年6月10日（日）～6月12日（火）

福岡会場（志賀島国民休暇村）

□ 2018年6月10日（日） ホームホスピスのチームケア

時 間	テーマ	内 容	講 師
13:30-15:00	生活を分断しない医療	ホームホスピスにおける在宅医療の役割と連携について学ぶ。	松本 武敏 (まつもと在宅クリニック院長)
15:10-16:30	多職種で行う食支援と 口腔ケア	食べる力の維持と回復を旨とする口腔ケアをスタッフや家族と協働して行う意義、よりよい方法を学ぶ。	角町 正勝 (角町歯科医院院長)
16:40-18:00	お薬との付き合い方	処方薬を管理するだけでなく、その薬を飲む意味、薬効など説明し納得してもらうまで、家族の目線と医師をつなぐ幅広い薬剤師の役割を紹介する。	工藤 信孝 (八幡薬剤師会理事)
19:00-21:00	懇 親 会		

□ 2018年6月11日（月） 日々の生活ケア

9:00-10:30	ホームホスピスのケア 概論	「ホームホスピスの基準」から「暮らしを整えるケア」について具体的に解説し、現場での看護と介護の協働について考える。	松本 京子 (神戸なごみの家管理者)
10:40-12:30	看取りまでの家族支援	看取りにいたるまでの在宅での長い期間、その時々で揺れ動く家族の気持ちに寄り添い、決断を支えるとはどのようなことか、現場から提言する。	平野 頼子 (緩和ケア支援センターコミュニティ代表)
12:30-13:00	ホームホスピスの看取り		市原 美穂
14:00-15:30	暮らしをよくするための のリハビリテーション	被介護者のADLを高めるために、現場で即使えるシーティング、ポジショニングを学ぶ。	金子 茂穂 (未来図 Lab0 代表)
15:40-17:00	排泄のケア	暮らしの中で排泄の習慣を整える意義とケアを学ぶ。	榊原 千秋 (同)プラスばばば代表社員 おまかせうんちっちゃん代表)

□ 2018年6月12日（火） ワークショップ

9:00-16:00 12:00-13:00 は 昼食	課題と解決方法の共有	ホームホスピスの課題を持ち寄り、明日に向けた展望を共に考える。それぞれの現場を持ち帰るために。	奥村 玄 (GEN プランニング代表 総務省地域づくりアドバイザー)
-----------------------------------	------------	---	--

- \* 「各論」の研修受講は、宿泊を原則とする。
- \* リーダー研修生、研修予定者はすべてのプログラムを受講する。
- \* なお、プログラムに若干の変更（講師、時間帯）の可能性もある。





【講師紹介】講演スケジュール順

市原 美穂	全国ホームホスピス協会 理事長	認定 NPO 法人ホームホスピス宮崎理事長。04 年に「ホームホスピスカあさんの家」を開設し、現在宮崎市内に 3 軒を運営する。2015 年「保健文化賞」(第一生命・厚生省)、2018 年「第 5 回エクセレント NPO 大賞 組織力賞」など受賞。
内藤いづみ	ふじ内科クリニック院長	福島県立医大卒業後、東京女子医大内科等に勤務。1986 年から英国のホスピスで研修を受け、1995 年、ふじ内科クリニック開業。ホスピス在宅ケア研究会やまなし代表。大正大学客員教授(人間学)。やまなし大使任命。
山口健太郎	近畿大学建築学部教授 一級建築士	京都大学大学院博士後期課程修了。(株)メトス、国立保健医療科学院協力研究員、近畿大学理工学部講師、同大学准教授を経て、2017 年より現職。2010 年日本建築学会奨励賞受賞。博士(工学)。
園田真理子	明治大学理工学部建築 学科教授/一級建築士	1993 年、千葉大学大学院自然科学研究科博士課程修了。市浦都市開発建築コンサルタンツ、日本建築センター勤務後、1997 年より明治大学理工学部建築学科専任講師、同大学助教授を経て、2009 年より現職。
高橋 紘士	高齢者住宅財団特別顧問	法政大学、立教大学、国際医療福祉大学大学院等の教授を経て現職。ケア政策、地域福祉の領域が専門分野。現在は「住まい」という視座から地域包括ケアに取り組み、各地の福祉現場を視察、提言する。
竹熊 カツマタ 麻子	筑波大学医学医療系 看護学教授	看護学博士・経済学修士、看護師・クリニカルナースリーダー。日本バプテスト看護専門学校にて看護を学ぶ。2017 年より現職。米国と日本を行き来しながら、看護教育・研究活動に携わる。現在、筑波で「看護の寺子屋」実践。
黒岩 雄二	全国ホームホスピス協会 事務局長	NTT 本社技術開発部、新規事業開発室等を経て外資系 IT 企業の日本法人設立に関わる。2001 年に宮崎市に移り、宮崎県 NPO マネージメントアドバイザーや BCP アドバイザーなどに携わる。準認定ファンドレイザー。
竹熊 千晶	ホームホスピス われもこう管理者 熊本保健科学大学教授	熊本大学社会文化研究科博士課程修了。公共政策学博士。保健師、看護師として仕事をする中で患者本人と家族の持つ力の大きさに気づき NPO「老いと病いの文化研究所」設立。2010 年、われもこう開設。
樋口千恵子	ホームホスピス たながくの家	昭和大学医学部付属高等看護学校卒業後、神奈川県立看護教育大学校で保健師の資格取得。久留米市で保健師として 30 年勤務。2011 年、たながくの家開設。地域住民の要望に応じて現在、4 軒のホームホスピスを同地域で展開する。
松本 武敏	まつもと在宅クリニック 院長	熊本大学医学部を卒業。1992 年、国立がんセンター東病院で肺がん診療や緩和医療に従事。2001 年に熊本で呼吸器全般の診療に携わって、2009 年に宮崎市のいしかわ内科などを経て 2015 年より現職。訪問診療を柱に地域づくりに取り組んでいる。
角町 正勝	角町歯科医院院長	1971 年、九州歯科大学卒業。歯学博士・日本摂食嚥下リハ学会認定摂食嚥下士。現在、日本リハビリテーション病院施設協会口腔リハ推進委員会委員長、医科歯科連携委員会など歴任。経済産業省課題解決型医療機器開発プロゼクトリーダー。
工藤 信孝	八幡薬剤師会理事	福岡大学薬学部卒業。糖尿病療養指導士、NST 専門療法士。北九州緩和ケア症例検討会代表世話人、小倉在宅緩和ケアミーティング世話人、化学療法ケアを考える会世話人、北九州緩和ケアネットワーク幹事。
松本 京子	ホームホスピス 神戸なごみの家 理事長	緩和ケア認定看護師の認定取得。なごみ代表。訪問看護・居宅介護支援・訪問介護事業開設。2009 年、ホームホスピス「神戸なごみの家 雲雀ヶ丘」開設。現在、神戸市内に 2 軒のホームホスピスや暮らしの保健室「なごみサロン」を開設。
平野 頼子	緩和ケア支援センター コミュニティ代表	福岡赤十字看護専門学校卒。2006 年、NPO 法人を設立し、訪問看護ステーションはな、小規模多機能型居宅介護三丁目の花や等開設、運営。その他、ふくおか在宅ホスピスをすすめる会世話人を務めるなど広く一般市民への在宅ホスピス啓発活動を実践している。
金子 茂稔	未来図 Labo 代表 宮崎県作業療法士会事 務局長。作業療法士	国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院卒業。宮崎江南病院リハビリテーション部責任者として、形成外科におけるシーティングポジショニング外来に従事。2014 年、株式会社未来図 Labo 設立。
榊原 千秋	コンチネンスケアおま かせうんちっ代表 (同) プラスぽぽぽ代表。	「いのちにやさしいまちづくりネットワーク」を設立。がん患者・家族の支援活動・聞き書きサークルなど幅広い地域包括への貢献に対して、2015 年、保健文化賞を受賞。全国でコンチネンスケアの普及をはかる。
奥村 玄	GEN プランニング代表 総務省地域づくりアド バイザー、等	東北大学工学部建築学科卒業 東京工業大学農村計画学研究室を経て、1974 年、株農村・都市計画研究所設立に参画。2005 年、株 GEN プランニング設立。2006 年、一財) 世田谷トラストまちづくり勤務。現在、横浜市地域まちづくり推進委員、他。